

海面養殖及び陸上養殖施設の機能強化策の検討とあるが、具体的にどの  
のような考えか何う／新垣雅士

『海面養殖及び陸上養殖施設の機能強化策の検討』ということで、これも村長の政策の中 {P7-(2)-⑥} に謳われていますので、具体的にどのようなお考えをお持ちなのか、お伺いしたいと思います。

■議長（金城信光） 答弁、農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 海面養殖について、本村においては従前より持続可能な水産業の振興を目的として、伊平屋村漁業組合員によりモズク及びアーサの海面養殖を行っております。特にモズクについては、県内においても拠点産地としての指定やMEL 認証取得の第一号として、「常に時代を先取りする先進地」として評価をいただいていると考えております。

施政方針の冒頭においても申したとおり、「スピリチュアル・アイランド構想」においては、本村の手つかずの自然を守りながらも、観光客に対して新たな貴重な体験を生み出すことが肝要となっております。そこで既存のストックを活用することで開発行為を伴わず、これまでにない新たな観光資源を創出することを目的としたサンゴの海面養殖を検討しております。具体的には、「利用頻度が低調な田名漁港の海底でサンゴの養殖を行い、環境保護に意欲的な観光客の誘因や環境問題に取り組む企業研修の誘致等につなげてまいりたい」と考えております。

次に陸上養殖施設の機能強化策の検討については、本村では伊平屋村水産物養殖場において伊平屋村漁業組合によりヤイトハタとマダイ、株式会社クラハシによるシロギスの養殖を行っています。また天然資源の減少が懸念される村魚カンモンハタ（イシミーバイ）の完全養殖について試験的に取り組んでいると伺っております。

本施設については、平成13年度の供用開始から20年以上が経過したこともあり、経年劣化や社会情勢の変化等により事業運用に支障をきたしていることを承知しております。機能強化対策の検討においては経済性を念頭に、新たな市場を開拓するとともに産地のブランド化を図り、本村の豊かな海洋資源の保護等を目的とした持続可能な水産業の振興と漁業経営の安定化に資する事業計画を策定してまいりたいと考えております。

■議長（金城信光） 新垣議員。

■6番 新垣雅士議員 課長から、サンゴ養殖や陸上で行われている養殖についてのお話がありました。漁協を預かっている立場として、今後どういう展開をするのか組合員に説明しないといけないので、この質問をしました。

陸上の施設については、かなり老朽化が激しく、24時間体制で警報等いろいろ対策はしているんですけども、なかなか厳しい状況にあると。採算ベースには乗り切れていないという部分があって、いずれにしても施設の改修を行わないとどうしようもできないということで、陸上養殖

施設については漁協の利益だけの追及ではなくて、先ほど課長がおっしゃっていましたカンモンハタ、マガキガイ（ティラジャー）等の種苗生産に取り組んでいます。これはどういうことかと言うと、種苗を作って放流をして、観光産業にもつなげていきたいという思いで進めています。

サンゴについては、行政側も私たちも金城さんのところまで行っている勉強もしてきたし、それはそれなりにそれでいいと思いますけれども、ぜひ老朽化した施設の改修までご協力をお願いします。この件については以上で、確認も含めた質疑になりました。これで終わります。